

複式全学年 学級活動指導案

複式Ⅰ組 1・2年男子8名女子8名 計16名
複式Ⅱ組 3・4年男子8名女子8名 計16名
複式Ⅲ組 5・6年男子7名女子9名 計16名
指導者 加治木 徹, 栗山 義人, 石川 雅仁

1 活動名 複式仲良し大作戦

2 活動について

(1) 本活動の位置とねらい

これまでに子どもたちは、学級や学校における生活の充実・向上を目指すために、学級や複式学級全員による話し合い活動を行い、よりよい学級や学校にしていこうとする意識は高まりつつある。また、複式学級に1年生や転入生が入ってきたことにより、所属している学級だけではなく、複式学級みんなでもっと仲良くしたいという気持ちが高まりつつある。さらに、1年生を迎える会を複式学級みんなで行う活動（グリーンタイム）として、計画委員会を中心にしてみんなで1年生が喜ぶにはどうしたらよいか知恵を出し合って話し合い、みんなで仕事を分担して協力しながらグリーンタイムを企画・運営することができた喜びも味わいつつある。

そこで、本活動では、これまで以上に充実した学校生活を送るために、複式学級のみんながこれまで以上にもっと仲良くしていくためにはどうしたらよいか話し合い、実践することを通して、友達の新たなよさに気付かせていくものである。また、話し合い活動で決まったことを多様な集団の中で発達段階に応じた役割を果たしていく中で、望ましい人間関係を築き、多様な集団への所属感を深めることができるものである。

これらの活動を通して、生活する中での諸問題に直面したときに自主的、実践的に活動したり、自己の生き方についての考えを深め、自己のよさを生かそうとする能力を培ったりしていくことができると考えられる。

(2) 指導の基本的な立場

楽しく充実した学級や学校の生活をつくっていく学級活動の話し合い活動では、子ども自らが諸問題に気づき、具体的な解決の方法を見い出して実践していく自主的・自発的な活動として展開されるところに特質がある。また、お互いに協力し合って活動することを通して、望ましい人間関係を形成したり、集団への所属感を深め、社会性や公共の精神を培ったりすることができる。さらには、異年齢集団による話し合い、実践、反省といった活動を通して、上級生がリーダーシップを発揮して下級生をまとめようとする姿や、下級生に対する思いやりの気持ち、子ども一人一人が異年齢集団の中での役割を自覚して活動する姿や、上級生に対する感謝やあこがれも気持ちをもつことができる。

そこで、議題収集に当たっては、学級、または複式学級全体として話し合いたいものはないかという視点で学校生活が楽しくなると思われること、悩みや困っていることなど議題ポストに入れさせるようにし、身の回りで起きている諸問題に気付いていけるようにする。次に、輪番制で行う学級の計画委員会では、当番の子どもと教師と一緒に、様々な議題の解決方法を話し合わせ、自分たちで解決できそうなことや時期的なこと、学級または複式全員に関係することなどを考慮して議題を選定していくことができるようにする。特に、複式全員で話し合った方がよいことについては、各学級の計画委員と計画委員会を開き、話し合い活動の企画・運営を行っていくことができるようにする。

実際の話し合い活動においては、計画委員会で話し合った話し合いの柱などを各学級の帰りの会等で知らせておき、特別活動ノートに自分なりの意見をまとめてから話し合いに臨むことができるようにする。また、学級全体のことを考えた意見になるように、話し合いを行う際に提案理由を振り返ったり、友達の意見を踏まえた発言ができるようにしていく。さらには、異年齢の子どもたちがお互いに相談したり、発表するときの手助けをしたりできるようにするために、フロアの座席配置を異年齢の子どもたちで小グループができるように工夫していく。振り返り際には、「聞

き方」や「伝え方」や「問い返し方」といった、学びを深める「学び方」が発揮することで、話し合いを深めることができることに気付かせていきたい。

話し合ったことを実践する際にも、異年齢の子どもたちが交流することができるように工夫するとともに、協力して活動することの大切さや複式学級全員という集団の中の一員としての所属感を深めることができるようにしていく。また、実践後の反省を明確にし、今後の活動に生かしていけるようにするなど、よりよい学級や学校を築くことができるように改善していくことの大切さに気付かせていく。

(3) 議題設定について

議題設定に当たって、学級の意見箱や朝の会、帰りの会などで出された議題案をまとめると、個人として解決するべきものや学級の係活動として解決するべきもの、学級または複式学級全員で話し合うべきものなどがあつた。

- ① 次の授業の準備をしないで遊んでいる人がいる。
- ② 係活動をちゃんとしてほしい。
- ③ みんなで遊ぶときのルールを決めてほしい。
- ④ 複式みんなのふれあいをもっとしたい。
- ⑤ 複式みんなで遊ぶ日をつくってほしい。

そこで、計画委員会では、これらの議題案を次のように解決していくことを話し合い、議題を集約・処理していった。

①、②については、個人の問題でもあるので、教師も十分関わりながら、朝の会等でみんなに呼びかけて様子を見ていくことにした。③については、遊ぶ内容によってルールは変わってくるので、みんなで遊ぶ内容が決まったときにルールを話し合っていくことにした。④、⑤については、複式みんなに関係があり、自分たちの話し合いで解決できそうな問題である。みんなで遊ぶ日以外にも複式学級全員がふれあう機会を増やすためにアイデアを出し合えばよいのではという意見によって複式みんながもっとふれあう機会を通して、仲良くなっていこうということを話し合っていくことにした。

本議題は、複式みんなで遊ぶ日を設定すること以外にも、自分のもっている特技や趣味を基にして同好の小集団を結成して一緒に遊ぶ活動や、係活動を複式みんなですていく活動などにも広げることができる。また、複式みんながふれあう活動をした後には、その活動は楽しかったのか反省をし、改善していくことで、今後のふれあい活動をよりよいものにしていくことができると考えられる。

(4) 児童の実態

① 話し合い活動は好きですか。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	【理由】
大好き	2	2	2	4	4	0	○楽しい
好き	2	3	4	3	2	1	○意見を言い合える
ふつう	4	3	2	1	2	5	○思ったことを言える
きらい	0	0	0	0	0	2	▲なかなか決まらない

② 学級活動が楽しいときは、どんなときですか。(複数回答)

- ・ 話し合いをして、みんなの意見を聞くとき (16名)
- ・ 話し合いをして、みんなの課題が解決したとき (12名)
- ・ グリーンタイムをするとき (11名)
- ・ 自分の意見がみんなに受け入れられたとき (4名)
- ・ 自分のやりたいことができたとき (3名)
- ・ 話し合い活動の司会や黒板記録ができたとき (3名)

①から、全体的に話し合い活動に対する関心は高いといえる。しかし、6年生は、楽しくないと感じている子どももいる。これは、多人数で話し合うと、多様な意見が出て、なかなか決まらないからと感じているようである。集団の一員としてみんなで意見を出し合う中で、建設的に話し合えるようにしていく

とともに、実践後にお互いに納得できるように改善していくような場を設定するなどの工夫が必要となる。

②から、学級活動の楽しさを感じている子どもは多いので、自分の意見を積極的に話すことができるようにしたり、友達の意見を最後まで聞き、よりよい考えを見出していくことができるようにしたりと充実した話し合いになるようにしていきたい。また、実践するときにも、みんなで知恵を出し合って決めたことをそれぞれの役割を生かしながら、達成感を味わえるような活動になるようにしていきたい。

3 指導上の留意点

ア 計画委員会では、複式各学級へ知らせたり、各学級での話し合いを全学級の話し合い活動に反映させるために、低学年の子どもたちも計画委員として参加させるようにする。

イ 自分の考えを話し合い活動で積極的に発言することができるように、計画委員会で計画した話し合いの柱について、自分の意見を特別活動ノートにまとめさせるようにする。

ウ 異学年の考えを交流するとともに、上学年の子どもたちが下学年の子どもたちの意見を聞き、発表の手助けができるようにするために、縦のつながりを意識した小グループができるような場の工夫をする。

エ 対立や反対意見により、会の運営に支障をきたす際は、実践してからよりよい方向へ改善していく考えや、全員の意見を基に、計画委員会でのどのようにするか練り直し、実践できるようにしていく。

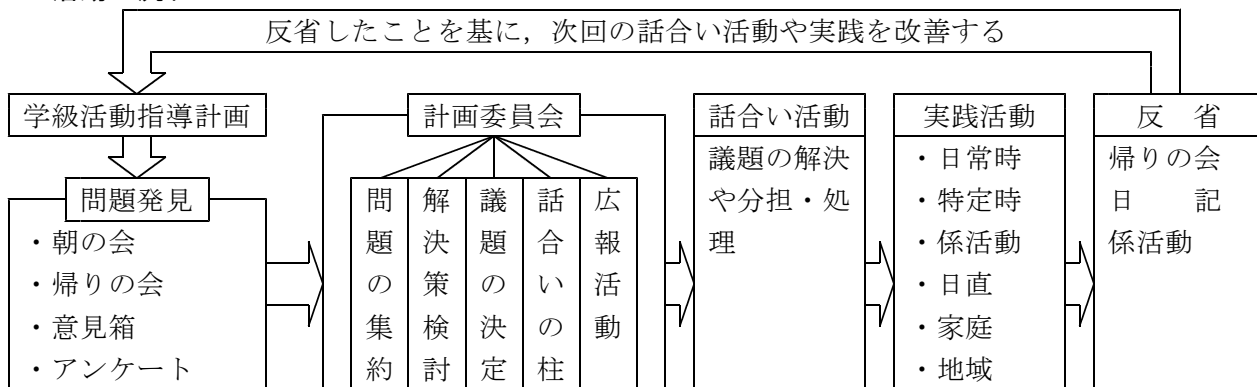
オ 話し合いの終末段階での振り返りの場面では、自分が立てたためあてについてどうであったか、「聞き方」、「伝え方」、「問い返し方」といった学びを深める「学び方」、ねらいに沿った話し合いであったかという観点で振り返るとともに、今後の改善策についても考えさせる。

カ 実践化の場面では、異学年の子どもたち同士が交流することができるようにするために、異年齢が入るようなグループ編成になるようにし、話し合いによって決まったことをみんなで実行できたことを賞賛・価値付けるとともに、次の話し合いや実践に課題を生かせるようにしていく。

4 目標

- 複式学級の一員として、複式みんなが仲良くなる方法について、進んで発表することができる。
- 議題の解決に向けて、これまでの経験や既存の知識を駆使して、解決方法や分担・処理の仕方について創意・工夫して取り組むことができる。
- 話し合い活動や実践活動の運営について、それぞれの役割に従って協力し合い、同学年や異学年の友達の意見を尊重しながら、自分の立場や意見をはっきりさせて話し合いに参加できる。
- 友達の意見や行動に対して、自分の考えを押し通すのではなく、複式学級みんなのことを考えた建設的な意見を述べることの大切さに気付き、集団の一員としての自覚をもつことができる。

5 活動の流れ



【複式仲よし大作戦で想定される議題】

- ・ 複式みんなで遊ぶ計画を立てよう
- ・ グループに分かれて友達のよさを見つけよう
- ・ 複式の係活動を見直し、一緒に活動しよう

6 本 時

(1) 目 標

複式学級みんながもっと仲良くなるために、異学年の同好の遊びについて考える活動を通して、集団の一員としての役割があることに気づき、同学年や異学年の友達と仲良く遊ぶことができる。

(2) 本時の展開に当たって

進行、司会は計画委員を中心に進めていくが、話し合いの中心がずれてしまったときには、適宜教師が助言をしていく。また、異年齢での意見交換ができるように場の工夫をし、高学年が小グループのリーダーとなり、個人の意見を聞くことができるようにする。

(3) 実 際

過程	主 な 学 習 活 動	役割分担	時間	教師の具体的な働きかけ	
気 づ く	1 はじめの言葉	進 行	5	○ みんなが知っている歌を元気よく歌わせ、明るくなごやかな雰囲気をつくるようにする。 ○ 進行や司会には、簡単な活動の流れの手引きを与え、時間を考えてスムーズな進行や話し合いができるようにする。	
	2 歌	黒板記録			
	3 議題の確認 複式みんなが仲良くなるために〇〇クラブをつくる計画を立てよう。	進 行			
見 つ け る	4 話し合いのめあての確認	司 会 副 司 会	3	○ これまでの話し合い活動の個人の反省より、一人一人にあつためあてを決定させ、その達成に向けて努力できるようにする。 ○ 座席については、異年齢同士の意見が活発に交換できるようにするために、各学年1名ずつの縦割り班のメンバーが近くになるように小グループをつくり配置するようにする。	
	5 話し合い (1) 提案理由の説明 複式みんながもっと仲良く学校生活を送ることができるようにするため。 (2) 提案者への質問 (3) 話し合いの手順の確認				
	① どのようなクラブをつくるか。 ・ 一輪車クラブ ・ ドッジボールクラブ ・ 長縄クラブ		10	○ どのようなクラブをつくるかということについて話し合うときは、みんなが楽しめるかという観点で意見を出すことができるようにする。	
	② 遊ぶときに気を付けること ・ 仲間はずれにしない ・ 違う学年の友達と一緒に遊べるように。		10	○ 自分が楽しむことだけについて考えている子どもには、もう一度提案理由について振り返らせ、みんながもっと仲良くなるために行うということを確認させる。	
	③ 入りたいクラブを決める。 ・ ぼくは、運動が好きだから、ドッジボールクラブがいいな。	進 行	10	○ できるだけ、異学年の子どもたちが交流できるようなグループ編成になるようにしていく。	
	6 決まったことの発表	ノ ー ト 記 録		○ 話し合いが深まったのは、「聞き方」「伝え方」「問い返し方」といった学びを深める「学び方」を発揮したためだということに気付かせるとともに、そのような子どもを教師側も称賛・価値付けるようにする。	
	7 先生の話	担 任	7	○ 課題となったことについては、次の活動で修正できるようにする。	
	8 話し合いの反省	進 行			
	ふ か め る				
	ふ り か え る	9 終わりの言葉	進 行		